（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援エフ　西高宮教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月9日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	36	（回答者数）	10
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月9日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・送迎時以外の職員配置は十分である。	・協力し合い、必要最低限で、かつ安全に送迎が行えるよう相談しながら進めることができている。	・送迎のみのパート職員さんを採用してもらえており、その結果さらに送迎時の職員の負担を軽減することができる。
2	・間取り的には十分な環境である。	・必要に応じて活用できる場所として有効に間取りを利用している。また、机の配置により間取りをさらに分割したりするなどして、安全に楽しく過ごせる環境設定に努めている。	・防犯カメラを設置することで、死角をすべてではないが減らすことができている。活用していきたい。
3	・生徒のアセスメント等、原案作成にかかわる会議の設定や状況確認シート等を活用した計画立案に生かすことができている。	・ミーティングを通して、すべての職員が積極的に生徒の様子を交流し、共有することができている。	・フォーマルなアセスメントツールがあるという訳ではないが、効果測定など支援方針を明確にしているため日々の様子を記録に書くなどしてよりよい活用に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・送迎に職員がとられてしまう。	・送迎範囲が比較的広いため、待機職員に偏る負担が大きくなってしまう。	
2	・担当者に偏る部分が大きい。	・児童発達管理責任者や専門支援員が書類を扱うという点でアセスメントツール活用の意識等に偏りが生まれている。	・児童発達管理責任者や専門支援員がミーティング等で中心となり、職員から意見を吸い上げていく仕組みを充実させていく。
3			